

くろもりじんじゃほんでん
黒森神社本殿

- ◇ 指定日 平成2年7月19日
- ◇ 所在地 山口
- ◇ 所有者 黒森神社

黒森神社は、江戸時代には「黒森山^{くろもりさんだいごんげん}大権現^{しゃ}社」などと呼ばれ、地元の修験者^{しゅげんじゃ}（山伏^{やまぶし}）が修行する神仏習合の霊山でもありました。

また、黒森山が宮古湾での漁業や航海の当て山（目当て）となったことから、閉伊郡の中でも代表的な神社として信仰を集めました。

現在の本殿は嘉永3年(1850年)に再興されたもので、市内でも最古の木造建築物のひとつです。典型的な腰組付一間社流れ造で、箱棟二間四面、屋根は木造銅板葺き（もと栃葺き）で千木・勝男木つきです。

欄間や扉脇の雲龍彫、向拝柱の獅子鼻・象鼻など、精巧で堂々とした造りに美しい彫刻を施し、当地方でも随一の歴史的建造物といえます。

